

平成 30 年 4 月 19 日

## 平成 29 年度 SGH 事業評価(速報値)について

附属中等教育学校  
校長 藤田 弘嗣

3 月に御協力いただいた SGH 事業評価アンケート結果の速報値(多肢選択回答の平均値のみ)について、お知らせします。自由記述及び学年別・項目別評価の分析結果については後日お知らせします。

\* 評価平均：下記換算をもとに平均を算出

(①そう思う：4 点 ②ほぼそう思う：3 点 ③あまりそう思わない：2 点 ④そう思わない：1 点)

### 1 前期生徒 SGH 評価アンケート結果 回答 386 名(回収率 99%)

☆3 年のみの項目 ①～④ 数値は%

| アンケート内容   | ①         | ②  | ③      | ④  | 平均  | 昨年  | 加減  |
|---|-----------|----|--------|----|-----|-----|-----|
| I Kobe ポート・インテリジェンス・プロジェクト(KP)について  |           |    |        |    |     |     |     |
| 1 探究テーマを適切に見つけることができた。  | 39        | 53 | 8      | 0  | 3.3 | 3.1 | 0.2 |
| 2 適切な資料調査やフィールドワークを行うことができた。  | 36        | 58 | 6      | 0  | 3.3 | 3.2 | 0.1 |
| 3 調査内容を適切にまとめることができた。   | 35        | 54 | 10     | 1  | 3.2 | 3.1 | 0.1 |
| 4 調査内容を適切に発表することができた。   | 30        | 54 | 14     | 2  | 3.1 | 3.0 | 0.1 |
| 5 グループ間などで意見交換ができた。   | 42        | 47 | 9      | 1  | 3.3 | 3.2 | 0.1 |
| 6 学習課題に対する理解は深まった。  | 52        | 40 | 8      | 0  | 3.4 | 3.2 | 0.2 |
| 7 KP に取り組んだことは有意義だった。   | 52        | 42 | 5      | 1  | 3.4 | 3.2 | 0.2 |
| II 教科の授業との関係について  |           |    |        |    |     |     |     |
| ☆9 特設科目「ESD」は地球的課題を学ぶ上で役立った。  | 63        | 31 | 5      | 1  | 3.6 | 3.4 | 0.2 |
| 10 教科で学んだことが、KP 学習に役立った。  | 38        | 41 | 16     | 5  | 3.1 | 2.9 | 0.2 |
| 11 KP 学習で学んだことが、教科学習に役立った。  | 29        | 44 | 21     | 6  | 2.9 | 2.8 | 0.1 |
| 12 学校では日本の課題や伝統文化について学ぶ機会がある。   | 35        | 51 | 12     | 3  | 3.2 | 3.1 | 0.1 |
| III 英語(外国語)力について  |           |    |        |    |     |     |     |
| 13 将来、高度な英語力(外国語)を身に付ける必要がある。   | 73        | 25 | 21     | 1  | 3.7 | 3.6 | 0.1 |
| 14 この1年間で、英語の授業以外で英語(外国語)力を身に付ける機会があった。   | 39        | 35 | 15     | 11 | 3.0 | 3.0 | 0.0 |
| 15 この1年間で、英語(外国語)によるコミュニケーション能力は向上した。   | 45        | 39 | 14     | 3  | 3.3 | 3.1 | 0.2 |
| V-a グローバル・アクション・プログラム(GAP)について  |           |    |        |    |     |     |     |
| 17 今年度 GAP に参加しましたか。①10 日以上 ②3 日以上 ③1 日は参加した ④参加しなかった   | 14        | 31 | 20     | 35 | 2.3 | 1.9 | 0.4 |
| 18 GAP への参加を評価するマイレージ制度は適切だと思う。   | 20        | 50 | 16     | 14 | 2.8 | 2.6 | 0.2 |
| 19 将来、海外の学校との交流に参加したいと思う。   | 45        | 32 | 16     | 6  | 3.2 | 3.1 | 0.1 |
| 20 将来、次の地域の海外研修に参加したい(複数回答可)<br>①ベトナム：ハノイ ②台湾：高雄 ③米：シアトル<br>④英：ロンドン、ケンブリッジ等⑤カンボジア⑥カナダ<br>⑦参加したくない | ①ベトナム：ハノイ |    | 22(27) |    | -5  |     |     |
|   | ②台湾：高雄    |    | 21(25) |    | -4  |     |     |
|   | ③米：シアトル   |    | 79(71) |    | +8  |     |     |
|   | ④英：ケンブリッジ |    | 75(65) |    | +10 |     |     |
|   | ⑤カンボジア    |    | 21(17) |    | -4  |     |     |
|   | ⑥カナダ      |    | 60(62) |    | -2  |     |     |
|   | ⑦参加したくない  |    | 22(24) |    | +2  |     |     |

|   |                              |    |    |    |    |     |     |     |
|---|------------------------------|----|----|----|----|-----|-----|-----|
| 21  | 将来、宮城県(仙台)など国内の学校との交流に参加したい。 | 28 | 32 | 22 | 17 | 2.8 | 2.8 | 0.0 |
| V-b GAPに参加した人のみ答えてください。(複数参加した場合は総合的に考えて答えてください。) |                              |    |    |    |    |     |     |     |
| 23  | 参加したプログラムは、充実していた。           | 47 | 46 | 6  | 2  | 3.4 | 3.2 | 0.2 |
| 24  | 地球や地域の諸課題に対する理解が深まった。        | 38 | 43 | 16 | 5  | 3.1 | 3.0 | 0.1 |
| 25  | 国際的なコミュニケーション能力の向上に役立った。     | 25 | 38 | 21 | 15 | 2.8 | 2.8 | 0.0 |

### <小括>

- ① ほとんどの項目で評価が上がっており、全体に上昇がみられます(0.1強)。KP課題学習に対する肯定的評価及びGAPへの参加も増えていることがわかります。ただ、学校評価や授業評価と同様に学年進行に伴って評価がやや下がる傾向がみられます。
- ② 項目別では、Q13「将来、高度な英語力(外国語)を身に付ける必要がある」(3.7)、Q9「特設科目ESDは地球的課題を学ぶ上で役立った(3年)」(3.6)等で評価が高く、Q18「GAPマイレージ」Q25「国際的コミュニケーション能力の向上」(2.8)Q11「KP学習が、教科学習に役立つ」(2.9)で、やや低くなっています。
- ③ GAPについては、全体として参加者が増えており、Q23「参加プログラムは充実」については、高い評価(3.4、肯定率93%)になっています。海外研修では欧米志向が強い傾向が出ています。
- ④ 大きな方向性については評価されているといえますが、記述回答等の分析を通し、個々の生徒への丁寧な対応策の検討が必要と考えています。

## 2 後期課程生徒SGH評価アンケート結果：速報値 回答338(回収率96%)

★4年のみの項目 ★5年のみの項目 ①～④ 数値は%

|                          | アンケート内容                            | ①  | ②  | ③  | ④  | 平均  | 昨年  | 加減   |
|--------------------------|------------------------------------|----|----|----|----|-----|-----|------|
| I SGH課題研究I(KP卒業研究入門)について |                                    |    |    |    |    |     |     |      |
| ☆1                       | テーマを適切に立て、必要な修正(絞り込み)を図ることができた。    | 18 | 87 | 51 | 9  | 2.7 | 3.0 | -0.3 |
| ☆2                       | 根拠となるデータの入手方法について理解できた。            | 23 | 10 | 37 | 3  | 2.9 | 3.0 | -0.1 |
| ☆3                       | 論文の構成や書式、引用等に関する遵守事項について理解できた。     | 32 | 93 | 34 | 5  | 2.9 | 3.0 | -0.1 |
| ☆4                       | 調査内容を適切に発表する多様な方法について理解できた。        | 28 | 86 | 45 | 5  | 2.8 | 2.9 | -0.1 |
| ☆5                       | 生徒同士で意見交換ができた。                     | 35 | 74 | 45 | 11 | 2.8 | 3.1 | -0.3 |
| ☆6                       | 研究課題に対する理解は深まった。                   | 40 | 87 | 32 | 6  | 3.0 | 3.1 | -0.1 |
| ☆7                       | 卒業研究入門(4KP)に取り組んだことは有意義だった。        | 38 | 69 | 38 | 19 | 2.8 | 2.9 | -0.1 |
| ★1                       | 研究テーマを適切に立て、必要な修正(絞り込み)を図ることができた。  | 23 | 56 | 18 | 4  | 3.0 | 2.8 | 0.2  |
| ★2                       | 研究に関し、問題意識は明確だった。                  | 24 | 51 | 22 | 4  | 2.9 | 2.8 | 0.1  |
| ★3                       | 研究は、社会的有用性を持つものだった。                | 25 | 41 | 27 | 6  | 2.9 | 2.7 | 0.2  |
| ★4                       | 研究にあたって、先行研究を調査した。                 | 40 | 36 | 16 | 8  | 3.1 | 3.1 | 0    |
| ★5                       | 生徒同士で意見交換ができた。                     | 32 | 29 | 31 | 9  | 2.8 | 2.7 | 0.1  |
| ★6                       | グローバル(&ローカル)な諸課題に対する理解は深まった。       | 19 | 42 | 27 | 12 | 2.7 | 2.6 | 0.1  |
| ★7                       | 調査・実験等を通して研究の根拠となるデータを得ることができた。    | 33 | 43 | 14 | 10 | 3.0 | 2.9 | 0.1  |
| ★8                       | 研究論文は、論理的・実証的に構成することができた。          | 33 | 43 | 14 | 10 | 3.0 | 2.7 | 0.3  |
| ★9                       | 研究論文の書式や引用等に関する遵守事項を守って書くことができた。   | 32 | 48 | 15 | 5  | 3.1 | 3.0 | 0.1  |
| ★10                      | 講座内発表では研究内容を分かりやすく伝えることができた。       | 31 | 42 | 17 | 7  | 3.0 | 2.8 | 0.2  |
| II 教科の授業との関係について         |                                    |    |    |    |    |     |     |      |
| ☆9                       | 特設科目「国際理解」は地球的課題を学ぶ上で役立った。         | 31 | 82 | 36 | 16 | 2.8 | 2.7 | 0.1  |
| ☆10                      | KPやESDのテーマ(上記A～J)に関連する授業を受けたことがある。 | 75 | 82 | 6  | 2  | 3.4 | 3.1 | 0.3  |
| 11                       | 教科で学んだことが、課題研究I(卒業研究入門)やKP学習に役立った。 | 23 | 34 | 28 | 15 | 2.7 | 2.6 | 0.2  |
| 12                       | 課題研究で学んだことが、教科学習に役立った。             | 14 | 35 | 32 | 19 | 2.5 | 2.6 | 0.2  |
| 13                       | 学校では日本の課題や伝統文化について学ぶ機会がある。         | 20 | 45 | 30 | 6  | 2.8 | 2.7 | 0.1  |

| Ⅲ 英語(外国語)力について   |  |    |    |   |  |     |     |      |
|--|--|----|----|---|--|-----|-----|------|
| 14   | 将来、高度な英語(外国語)力を身に付ける必要がある。   | 58 | 34 | 7   | 1  | 3.5 | 3.4 | 0.1  |
| 15   | この1年間英語の授業以外で英語(外国語)力を身に付ける機会があった。   | 29 | 50 | 14  | 7  | 3.0 | 2.9 | 0.1  |
| 16   | この1年間英語(外国語)によるコミュニケーション能力は向上した。   | 44 | 31 | 23  | 2  | 3.2 | 3.1 | 0.1  |
| V-a グローバル・アクション・プログラム(GAP)について   |  |    |    |   |  |     |     |      |
| 18   | 今年度 GAP に参加しましたか。*学年で実施した行事も含まれます。<br>①10日以上 ②3日以上 ③1日は参加した ④参加しなかった             | 32 | 25 | 16  | 28   | 2.6 | 1.9 | 0.7  |
| 19   | GAP への参加を評価するマイレージ制度は適切だと思う。   | 15 | 32 | 28  | 25   | 2.4 | 2.3 | 0.1  |
| 20   | 将来、海外の学校との交流に参加したいと思う。   | 35 | 30 | 20  | 16   | 2.8 | 2.7 | 0.1  |
| ☆21  | 将来、次の地域の海外研修に参加したい(参加した)。(複数回答可)<br>①台湾：台北、高雄 ②英：ロンドン、ケンブリッジ等<br>③カンボジア ④参加したくない |    |    | ①台湾：台北、高雄<br>②英：ケンブリッジ等<br>③カンボジア<br>④参加したくない | 26(19)+7<br>46(37)+9<br>13(17)-4<br>31(33)+2 |     |     |      |
| ☆22  | 将来、宮城(仙台)など国内の学校との交流に参加したいと思う。   | 21 | 34 | 21  | 24   | 2.5 | 2.7 | -0.2 |
| ★22  | 6年生になっても、GAP(セミナー含む)に参加したいと思う。   | 10 | 24 | 20  | 46   | 2.0 |     |      |
| V-b GAPに参加した人のみ答えてください。(複数参加した場合は、総合的に考えて答えてください。)<br>(複数参加した場合は、総合的に考えて答えてください) |  |    |    |   |  |     |     |      |
| 24   | 参加したプログラムは、充実していた。   | 43 | 26 | 7   | 0  | 3.5 | 3.3 | 0.2  |
| 25   | 地球や地域の諸課題に対する理解が深まった。  | 28 | 29 | 14  | 8  | 3.0 | 3.0 | 0    |
| 26   | 国際的なコミュニケーション能力の向上に役立った。   | 37 | 28 | 7   | 4  | 3.3 | 3.2 | 0.1  |
| Ⅵ 将来に関して   |  |    |    |   |  |     |     |      |
| 28   | SGHの取組を利用した受験を考えている。   | 14 | 24 | 22  | 39   | 2.1 | 2.3 | -0.2 |
| 29   | 将来、国際的な大学・学部に進学したい。  | 29 | 26 | 20  | 25   | 2.6 | 2.8 | -0.2 |
| 30   | 将来、海外に留学したい。   | 35 | 25 | 25  | 15   | 2.8 | 2.6 | 0.2  |
| 31   | 将来、国際的に活動する仕事につきたい。  | 25 | 28 | 23  | 24   | 2.6 | 2.5 | 0.1  |

\*網掛けは昨年度6年生も含めた数値

#### <小括>

- ① 全体としては、わずかに上昇(0.1程度)しています。学年によって質問項目が異なるため、一概に比較はできませんが、学校評価や授業評価と同様に前期課程より評価の低下がみられます。学年進行につれて評価が下がる傾向は中高一貫校の一般的特徴で、特定要因を除けば、生徒の成長(メタ認知能力の発達と批判的思考力の高まり)が背景にあります。
- ② KPについて4年と5年で顕著な差が出ました。5年「課題研究Ⅱ」(Q★1~10)では、Q8「研究論文は、論理的・実証的に構成することができた」(0.3)をはじめ、ほぼ全項目で上昇しています。逆に4年「課題研究Ⅰ」(☆1~7)では、全項目で評価が下がっています。昨年度の4年KPは今年度よりやや高度化した内容で進めたことが影響しているのか、別の原因があるのか、よく分析・検討したいと思います。
- ③ 項目別では、Q☆10「KPやESDのテーマに関連する授業を受けた」で0.3の上昇がみられました、いっぽう、Q18「GAPマイレージ」(2.4)、Q12「課題研究が、教科学習に役立つ」(2.5)等で、低い評価が出ています。また、Q22(宮城交流：評価2.5)Q28・29の進路面での評価が低下(-0.2)しています。
- ④ GAP参加者については、Q24「参加したプログラムは、充実していた」(3.5)、Q25「地球や地域の諸課題に対する理解が深まった」(3.0)、Q26「国際的なコミュニケーション能力の向上に役立った」(3.3)の3項目すべてで肯定的な評価となっています。
- ⑤ 4年「課題研究」の課題を明らかにすると共に、記述回答等の分析を通じた、個々の生徒への対応も含めた改善策の検討が必要と考えています。

### 3 保護者 SGH 評価アンケート結果 629 名(回収率 85%)

①～④ 数値は%

|     | アンケート内容  | ①   | ②  | ③  | ④  | 平均  | 昨年  | 加減   |
|-----|--|---|----|----|----|-----|-----|------|
| Q1  | 課題研究(卒業研究)及び KP 学習が、SGH の主要な事業であることを知っている。   | 46  | 39 | 12 | 3  | 3.3 | 3.1 | 0.2  |
| Q2  | 課題研究(卒業研究)及び KP 学習は有意義だと思う。  | 33  | 52 | 12 | 3  | 3.2 | 3.2 | 0.0  |
| Q3  | 子どもの課題研究(卒業研究)及び KP 学習の取組について知っている。  | 29  | 49 | 19 | 3  | 3.0 | 3.1 | -0.1 |
| Q4  | 課題研究(卒業研究)及び KP 学習の取組について知る機会がある。  | 17  | 52 | 27 | 3  | 2.8 | 2.8 | 0.0  |
| Q5  | 課題研究(卒業研究)及び KP 学習は、子どもの将来の進路に役立つと思う。  | 33  | 49 | 16 | 2  | 3.1 | 3.1 | 0.0  |
| Q6  | 本校がユネスコスクールであることを知っている。  | 64  | 22 | 9  | 5  | 3.5 | 3.3 | 0.2  |
| Q7  | ユネスコスクールが推進する ESD(持続可能な開発のための教育)について知っている。   | 12  | 35 | 39 | 14 | 2.5 | 2.3 | 0.2  |
| Q8  | 本校が課題研究を支える科目として「ESD」「国際理解」を特設していることは有意義だ。   | 28  | 56 | 13 | 2  | 3.1 | 3.0 | 0.1  |
| Q9  | この1年、子どもの英語(外国語)によるコミュニケーション能力は上達したと思う。  | 25  | 44 | 24 | 7  | 2.9 | 2.8 | 0.1  |
| Q10 | 将来、子どもに高度な英語(外国語)力を身に付けてほしい。   | 75  | 23 | 2  | 1  | 3.7 | 3.7 | 0.0  |
| Q11 | SGH 事業のグローバル・アクション・プログラム(GAP)について知っている。  | 37  | 47 | 13 | 2  | 3.2 | 3.1 | 0.1  |
| Q12 | 子どもは、今年度 GAP に次の日数参加した。<br>①10 日以上②3 日以上③1 日は参加した④参加しなかった  | 25  | 42 | 12 | 21 | 2.7 | 2.3 | 0.4  |
| Q13 | GAP 参加を評価するマイレージ制度は適切だと思う。   | 9   | 36 | 41 | 14 | 2.4 | 2.3 | 0.1  |
| Q14 | 本校が海外の学校と交流校協定を結んでいることを知っている。  | 48  | 39 | 10 | 3  | 3.3 | 2.7 | 0.6  |
| Q15 | 子どもに、次の海外研修に参加させたいと思う。(または参加させた。)(複数回答可)<br>①ベトナム：ハノイ ②台湾：高雄 ③米：シアトル<br>④英：ロンドン、ケンブリッジ等 ⑤カンボジア ⑥カナダ<br>⑦参加させたくない | ①ベトナム：ハノイ 27(22)+5<br>②台湾：高雄 25(21)+4<br>③米：シアトル 48(51)-3<br>④英：ケンブリッジ 53(56)-3<br>⑤カンボジア 17(18)-1<br>⑥カナダ 51(57)-6<br>⑦参加させたくない 7(8)-1 |    |    |    |     |     |      |
| Q16 | 子どもに、国内研修に参加してほしい。   | 54  | 38 | 7  | 2  | 3.4 | 3.4 | 0.0  |
| Q17 | SGH 事業に対する神戸大学の具体的な支援内容を知っている。   | 6   | 30 | 48 | 16 | 2.2 | 2.2 | 0.0  |
| Q18 | 将来、子どもに国際的な大学・学部に進学してほしい。  | 35  | 41 | 21 | 4  | 3.1 | 3.0 | 0.1  |
| Q19 | 将来、子どもに海外留学をしてほしい。   | 35  | 40 | 20 | 5  | 3.1 | 3.0 | 0.1  |

#### <小括>

- ① 回答数・回収率が増加している中で、評価は小幅(0.1)ですが上昇しています。指定3年目を迎え内容も安定し周知方法も改善された結果と思われます。ただし、生徒と同様に学年進行につれて、全体的に評価が下がる傾向にあります。保護者の回答は、生徒の意識や状況を間接的に反映していると考えています。
- ② 項目別ではユネスコスクールの活動や交流相手校の認知度が高まったことがわかります。いっぽう、Q13「マイレージ制」(2.4)Q17「神戸大学の具体的な支援」(2.2)への評価が低いことがわかります。
- ③ マイレージについては「学びの履歴」を重視する共通テスト以降の入試制度とも合致していると考えていますが、個々の生徒への「有利不利」(特に入試に関わる)の観点のみでとらえられる傾向もあることから、必要な改善を図ると共に、個々のGAPの性格についての丁寧な説明が必要と判断しています。
- ④ 海外研修の希望先については、昨年度よりベトナム・台湾が上昇していることから、わずかながら、アジア志向が強まったと考えています。